

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

新たな自分発掘の時間 ～韓国での自分磨き～



鹿児島県観光交流局かごしま PR 課 古殿 誠

外国人として生きる

韓国に降り立つやいなや、そこから外国人としての時間がスタートしました。意識することのなかった日本人としての常識や習慣を、大勢の韓国人との交流を通じて、再認識する時間の始まりでした。外国人として海外で生きることは、疎外感のような、また、一種の開放感に似た感覚にもとれました。

時間感覚の違い

韓国での日常生活では、殆ど困る事はありませんでしたが、業務を進める中で、困った事の一つは、時間感覚の違いでした。「日本の1か月は、韓国の1週間、中国の1日」と言われるくらい、業務を進めるうえでの時間感覚のずれに大いに悩まされました。ソウル事務所では、日本、中国、韓国の3か国の関係者が協力するケースがありましたが、三者の調整は必ずと言っていいほど難航します。「1か月も先の事なんて決められる訳がない」と言う中国側に対し、「幹部に対する説明が必要だ」として、現時点での相手国の調整状況に関する情報を要求する日本の自治体関係者。当日、出席者が変更することも珍しくない中国にとって、そのような資料を要求されることなんてあり得ない状況でした。一方では、焦る日本の関係者に猶予を求めつつ、一方では、中国側の関係者に督促をかけてお互いの妥協点で折り合いをつけるという、日本では経験できない時間感覚の中での業務が多かったように思います。

感覚の違いを楽しむ

海外で仕事や生活をするうえで、自分の慣れ親しんだ常識や習慣を相手に押し付ける、あるいは物事を判断する際の基準にすることはタブーです。「郷に入れば郷に従え。」という通り、その国の風土に根付いたやり方に合わせる事が重要でした。日本人は真面目で勤勉だが、仕事細か過ぎて、時間がいくらあっても業務が捗らな

い。韓国人の仕事は早い、内容がラフ過ぎる。しかし、裏を返せば、日本人の仕事は正確だし、韓国人は方針決定が早く、軌道修正能力が高い。つまり、目的に辿り着くまでのプロセスが違うだけで、お互いの目的や到達点一緒だということに気がつく、感覚の違いを楽しむ余裕が生まれます。この使い分けを体感し、自身の常識（視野）の幅を広げることこそが海外事務所ならではの経験だと思います。

ソウル事務所での思い出

ソウル事務所勤務期間中に、草の根交流では、韓国最大規模のイベント「日韓交流おまつり」の運営委員を務めたことや、韓国著名漫画家「ホヨンマン画伯」による日本の地域の魅力発信事業に携わったことは、韓国人の感覚を通して、日本の魅力を再発見できる素晴らしい体験でした。

韓国では、性別や年齢を問わず、美容整形で自分に磨きをかける人を多く見かけました。私は、韓国での業務を通じて、違う意味で自分磨きが出来たと感じています。



日韓交流おまつり (2014年9月)

プロフィール・ほか

- 現在の所属・役職：観光交流局かごしま PR 課・技術専門員
- 現在の業務内容：知事トップセールス・県産品 PR
- クリア時代の所属：
H24.4～H25.3 クリア東京本部経済交流課 主査
H25.4～H27.3 クリアソウル事務所 所長補佐